

令和元年度淀川区区政会議 第2回安全・安心なまち部会 議事要旨

日 時：令和2年1月31日（金）午後6時29分～午後8時22分

場 所：淀川区役所 5階 501会議室

出席者：

- ・委員8名（8名中）
新井委員、田中委員、渡土委員、永野委員、中本委員、堀委員
増田委員、米山委員
- ・区役所
久保政策企画課長、畑中市民協働課長、鳶岡保健福祉課長、大畑保健副主幹
山崎市民協働課長代理 外

内 容：

1. 開 会
2. 政策企画課長あいさつ
3. 議長、副議長の選出
4. 議 題 「令和2年度淀川区運営方針（案）の策定について」
 - (1) 令和2年度淀川区運営方針 概要版（案）について
 - (2) 防災対策（自助の取組）について
 - (3) 地域安全対策について
 - (4) 地域における見守り支援体制の構築について
5. その他

資 料：

【当日配布資料】

- ・次第
- ・区政会議部会名簿
- ・座席表
- ・（資料5）区政運営における運営方針の位置づけについて
- ・SDGs 達成に向けた大阪市の主な取組
- ・配付資料一覧
- ・ご意見票
- ・よどマガ1月号
- ・まちセン通信1月号
- ・くらしの便利帳（淀川区）

【事前配布資料】

- ・(資料1) 令和2年度淀川区運営方針 概要版(案)
 - ・(資料2) ご意見をうかがいたい内容
 - ・(資料3) 平成30年度淀川区運営方針 区政会議委員による評価 集計結果
 - ・(資料4) 区政会議における令和2年度淀川区運営方針に関するご意見への対応方針
 - ・(参考) 令和元年度第1回淀川区民アンケート集計結果
-

1. 開 会

2. 政策企画課長あいさつ

- ・各委員及び担当課、区政会議運営事務局による自己紹介。
- ・北中島地域の推薦委員が和田委員から渡士委員に交代し、渡士委員には安全・安心のまち部会に所属していただくことを説明。

3. 議長、副議長の選出

増田委員を議長、米山委員を副議長とすることを互選により決定。

4. 議 題 「令和2年度淀川区運営方針(案)の策定について」

(1) 令和2年度淀川区運営方針 概要版(案)について

○運営方針の制度説明や昨年度からの変更点について説明。(波越政策企画課係員)

○各担当課より具体的取組の説明

- ・経営課題1 安全・安心なまちづくりの具体的取組 1-1-1～1-1-4 について説明(畑中市民協働課長)
- ・経営課題1 安全・安心なまちづくりの具体的取組 1-2-1 について説明(寫岡保健福祉課長)

・各地域の避難所について、消防署や町内会でそれぞれ説明が違う場合があります。どちらかわからないのは困るので、避難場所については統一した見解を示してほしいです。(永野委員)

⇒災害の種類によっても違いますし、避難所に行くことによって逆に災害に遭うというパターンも考えられるため、一概に「こっちに行ってください。こちらにとどまってほしい。」という形にはならないと考えています。(畑中市民

協働課長)

⇒災害は、お昼、朝、夜、いつ発生するかわからず、お勤めの方、学校に行かれています方、様々だと思いますので、災害時の対応については行政から指示するものではなく、御家庭で話しあっておいていただくということが自助につながると考えています。

淀川区18万人の人口に対して、避難所は27箇所しかありません。収容能力の問題がありますので、全員が学校に避難することが安全とは言えず、ケース・バイ・ケースだと考えています。ただ、町会が避難所の場所を地域にしっかりと示していくことが安心につながるのであれば、それは自主防災組織として意義があるのかと思います。(山崎市民協働課長代理)

(2) 防災対策（自助の取組）について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「防災対策（自助の取組）」について説明（山崎市民協働課長代理）

- ・令和元年度に実施した18～29歳対象の区民アンケートの結果では若年層の防災意識の高さが確認できました。一方で、若年層の半分が備蓄は1～2日程度しかしていない、つながりを作るのが怖いという回答があり、若年層ならではの課題がありました。
- ・令和2年度は若年層の防災課題にアプローチし、防災力向上に向け新たな取組を行いたいと考えています。
- ・若年層が防災について意見交換する「防災ラウンドテーブル」のような仕組みづくりが有効だと考えていますが、この取組へのご意見の他、若年層の防災意識向上に効果的と思われるものについてご意見をいただきたいです。
- ・子どもの安全を考える取組をして、その中に子育て中の保護者や若い世代の方も入ってきていただくと、独身であったとしても、お友達や知り合いも増えていくと思います。PTA関係などでもそういったつながりをもっていけたら、若い方の意見を聞く取組ができるのではないかと思います。(堀委員)
- ・意見交換をするのではなく、防災に対しての知識を定期的に身に付けてもらうために、学校に授業の一環として防災訓練を取り入れるようなことを、具体的にやっていけないと思います。(渡士委員)
- ・若年層は、ボランティアをしたいという高い意識を持っていると思いますが、ボランティアをするために集まってくれた人を混乱させないためにも、受け入れる町会等が、指揮系統等の体制づくりをすることが重要だと思っています。

す。(米山委員)

・若い人の取組が話題になっていますが、PTAをされている世代の方は、子どもたちと一緒に防災訓練があっても参加されない方も多いです。その辺り、一からやり直さないといけないような気がしています。(新井委員)

・「地域住民とのつながりをつくっていききたい」という若年層が72%もいるので、この若者たちに、地域活動に協力してもらいたいと思います。そのために、どのようなことをすればいいのか、提案を聞かせていただきたいです。(中本委員)

⇒小学校で行われている盆踊り・夏祭りのような、誰もが気軽に参加できるイベントに参加することをきっかけに、地域とのつながりを作っていくということを検討しています。(山崎市民協働課長代理)

・若い人は実際に自分が被災するというイメージが沸いていないから備蓄をしてない、というようなことも考えられると思うので、そのあたりを、今後この部会で詰めていけたらと思います。(増田委員)

(3) 地域安全対策について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「地域安全対策」について説明(山崎市民協働課長代理)

・令和2年度は子どもの安全を守る取組に重点を置いた取組を進めたいと考えています。

・一つ目に、「交通事故にあわないために」をテーマに「子どもの安心・安全フェスティバル」を開催します。このようなイベントがより実効性の高いものとなるためのご意見をいただきたいです。

・「子ども110番の家」事業について、現在約1,400件の方々に協力をいただいています。今後さらに協力の輪を広げていくことが犯罪抑止力向上に向けて効果的と考えていますが、協力者を増やすためにはどのような取組をすればいいか、ご意見をいただきたいと考えております。

・通学路の旗持ちについて、道路に立って通学路の誘導に協力してくれている人の安全性を確保しながら、子どもを安全に誘導するためには、どうするのが一番いいのか、その方法を警察や消防から具体的に教えていただけたらと思います。(田中委員)

- ・子どもの安全に関する日を一日決めて、淀川区全体で取り組みを実施するという形にしたら、何かの役割で私も1回参加してみましようというふうに、地活協に関わりのない方もやっていただけるんじゃないかなと思います。

(中本委員)

- ・各地域で見守りをされてると思うのですが、子ども向けの安全イベントで地域の見守り活動を紹介されてはいないのですか。また、旗振りの協力者を対象とした安全研修は実施されているのでしょうか。(増田委員)

⇒特に区役所からは行っていません。地域によっては、入学式の後の顔合わせを行っているところや、ニュースを配布しているところがあります。安全研修については、今まで実施していなかったもので、警察と実施について検討してみます。(山崎市民協働課長代理)

- ・子ども110番の家について、私たちの地域では有効活用しようとしているのですが、サラリーマンが多い地域なので、下校時間に不在のお宅が多いです。1階にある事業所や、マンションの管理人がいるところにもお願いに行きました。これから更に強化しようと思っているのですが、できたらもう全部の家に張り出して、「この地域気持ち悪いな」と思ってもらえるぐらいでいいというようなことはみんな話しています。(増田委員)

(4) 地域における見守り支援体制の構築

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「地域における見守り支援体制の構築」について説明(大畑保健副主幹)

- ・「孤立死」は高齢者だけではなく、若年層の家族がいる世帯や生活困窮世帯でも起こり社会的問題となっています。
- ・地域で「孤立死」を防ぐ有効な取組について、委員の皆様から様々なご意見をいただきたいと考えています。

- ・私の地域では、独居高齢者で親族が近所にいない人などには、週に1回乳酸菌飲料の配達をお願いして見守りを行っています。高齢者も若い人も、いざというときのコミュニケーションは非常に難しいです。高齢者の方には、「緊急通報システムを使ってほしい」とお願いしているのですが、ほとんど使っていただけません。(米山委員)

- ・年に2回の地域行事で、独居老人の方や要介護の方に、赤飯を配りながら安否確認をしています。あと、班長さんをお願いして、1カ月か2カ月の間隔

で町会費をもらうときに安否を確認するなど、班長さんのできる範囲内で見守りをお願いしています。(中本委員)

- ・民生委員が常に独居の方や高齢者だけの世帯の見守りをしていますが、それだけではなくて、お隣同士が声を掛け合うと、孤独死はなくなるような気がします。(新井委員)

- ・地域で戸建てに昔から住んでいる方は、横のつながりがありますが、マンションではそういったことが希薄になっています。逆にそういったつながりを嫌がってマンションに住んでいる方が結構いらっしゃるので、その辺りが難しいと思います。(田中委員)

- ・私の町会では、年1、2回、民生委員が独居老人の方を訪問して、安否確認をしています。また、デイサービスなどを受けていると、週に1回か2回来た際に状況が確認でき、状況が悪いとご家族に連絡できますので、調子が悪い場合は、そのようなサービスを受けてはどうかと、家族の方に勧めています。それが一番実践的で確実かと思います。(渡士委員)

- ・これまでも地域包括支援センターや民生委員やご家族の方とも相談してきましたが、決定的な方法は無いと思います。こちらが勝手に介入することもできませんし、対策が難しいと思っています。結局時間がかかりますが、つき合いをいろんな形でつくって、顔なじみになる方法しかないと思います。(永野委員)

- ・家から出られる方は顔なじみになって、その方の状況がわかりますが、家に入ったきりの方の場合はわかりません。ヘルパーさんとかが来ていないときの時間帯は本人も不安でしょうが、近所でも家族でも、24時間一緒にいてあげるということは無理なので、そういうところを地域として本当にどうしていくべきかということが難しいと思います。(堀委員)

- ・これまでの意見を踏まえると、高齢者に関しては、向こうからの発信よりは訪問などのプッシュ型がいいのではと思います。隣同士が、「何かちょっと出てきていないけれど」というような形でお互いに見守ることが必要なのではないかと思います。

それと、町会というものが見守り支援体制には欠かせないと思うので、改めて町会の必要性を伝えていくことが重要だと思います。問題は若年層の孤立

死だと思えます。働いていれば、会社を無断欠勤してるということで、異常がわかると思うのですが、ニートの状態でひとり暮らしだと、民生委員としてもかかわりが無いということもあるし、地域の中で見守りを続けることが困難だと思えます。若年層はLINEを使うと思うので、人に会わなくてもLINEで相談が可能な取り組みがあればいいのではないのでしょうか。(増田委員)

⇒ 人員体制や、LINEは小まめにチェックをしないといけないという点から、大阪市ではまだ取り組めていないと思えます。(大畑保健副主幹)

⇒ LINEの場合は、メッセージを受け取りたくない場合、ブロックされてしまい、発信しても意味がなくなってしまうので、活用方法を検討する必要があります。(藏本政策企画課担当係長)